令和2年度授業改善プラン

（取り組み内容）　・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（　国　語　）　教科担任名

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜〇成果　▲課題＞

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの１次評価）	2学期終了後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
国語への関心・意欲・態度	1年	わずか1か月半の中学校生活で、まだ中学生らしい勉強の仕方が身に付いていないと思われる。すなわち課題に対して受け身であり、理解できなくても構わないという感じが見受けられる。	課題は必ず終わらせることを身をもって理解させ、能動的な勉強の姿勢を確立させる。				
	2年	全体としてみると意欲的に組む生徒が多いが、読み書きに対する強い抵抗感をもち、取り組みが悪い生徒も各クラスいる。	本時の学習目標を文章にし、黒板前面に明確に示すことで学ぶべき課題を意識させせ、終わりには達成感をもたせる。				
	3年	〇学年が上がるにつれ、提出状況や授業の取り組みの姿勢が良くなる生徒が全体的に増えた。 ▲一部の生徒は提出物を仕上げたり整理したりすることが著しく苦手である。 ▲活字や長文に対する拒否感が強い生徒は、意欲喚起が非常に難しい。	・1学期の提出状況を受けて、個々に声かけをする。また、改めてノートの取り方やワークの取り組み方を個別で伝え、ゼロだったものを少しでもプラスにする。 ・授業内外で特定の生徒に声かけをし、授業を受けやすいように指導を工夫する。工夫は個々の特性による。 ・授業の冒頭で行う意欲喚起を更に工夫し、ICTや時事的な素材を増やす。 ・生徒の作品例を提示し、意欲喚起及び取り組みの参考にする。				
話す・聞く能力	1年	短い期間であったため、聞く力や話す力を判定するということが理解できないように感じられる。	何度も経験することで、やり方や意味をつかむのではないかと思われる。 スピーチも評価観点を明確にして、能力を高めていく。				
	2年	自分の意見や感想を言語化し伝えることを苦手とする生徒が多い。	意見交流の場を意図的に多く設定し、話す、聞くの力の定着、向上をはかる。意見発表会を設定し、わかりやすく伝えることを意識した文章を作り、伝えることを意識した発表をさせる。				
	3年	〇発表者の発表内容を聞き取り、そこから自分の考えを膨らませることができる生徒が多い。 〇相手の意見の良さを踏まえ、自分の意見を主張できる生徒が多い。 ▲人前で話す経験が少ないため、苦手意識を感じている生徒が多い。	・自分一人が注目されるようなスピーチ形式は苦手意識があるので、集団討論など、協同で行うものを実施する。 ・引き続き集団討論の要点を伝え、生徒が実践しやすい工夫をする。				
書く能力	1年	まだ一つしか課題をやっておらず、全体的な能力の判定は定かではない。が、原稿用紙の使い方等、基本的な事項の理解が不十分な生徒が多い。	原稿用紙の使い方、校正の仕方、推敲について理解させる。こまめに課題を設定し、書くことに慣れるようにしていく。				
	2年	自分の考えを文章化することに対する苦手意識が強かったり、短い言葉でで文章化することができない生徒が多い。	他人の考えから広げた自分の考えを文章化し、ノートにメモする指導を行うことで、書くことに慣れさせていく。 長めの文章を短い言葉でまとめる作業を授業の中に多く取り入れていくことで、こつを身につけさせる。				
	3年	〇例文を提示し続けたことで、正しい型を身に付ける生徒が増えた。 ▲基本的な主述のねじれのミスや、文の整合性が取れない記述をする生徒が多い。 ▲話し言葉と書き言葉の区別が全体的に苦手である。 ▲「書く」ことに対して全体的な拒否感が強い。	・これまでは添削をして終わっていたので、生徒間の添削、及び教員の添削後の書き直し、再提出を行う。正しい型を書き直して身に付ける練習をする。 ・書きたくなるような題、書きやすい題を織り交ぜる。 ・引き続き、例文を示すことで正しい書き方の型の定着を目指す。				
	1年	文章の細かな読み取りや、設問に対する答え方などが不十分であるように思われる。苦手意識をもっている生徒が多いようで、意欲がなかなか向上しないようである。	読みやすい教材を準備し、生徒の意欲を涵養する。同時に5W1H、登場人物、心情の読み取り、場面設定など細かく課題を設定し、生徒に達成感をもたせる。				

令和2年度授業改善プラン

（取り組み内容）
・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（　国　語　）　教科担任名

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜〇成果　▲課題＞

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの１次評価）	2学期終了後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
読む能力	2年	読解力が乏しい生徒が多い。	心情描写の読み取り方、構成を意識した文章の読み取り方等を示しながら、読解作業を行い、読解力の定着を図る。				
	3年	〇大半の生徒は授業で扱う文章を論理的に読み解くことができる。 ▲心情読解、論理的読解に苦手意識をもつ生徒が一定数いる。その結果、長文には強い抵抗を感じている。 ▲読書習慣の差が授業の理解や学力に顕著に見られる。	・読解は小テストになじまないが、実施を検討する。 ・引き続き補習を行う。 ・引き続き、注目すべき語句や読解の方法を授業で扱う。 ・【言語】と重複するが、語彙と読解力は密接に結びつくため、小テストを前提とした語彙の学習で語彙の獲得を目指す。				
言語についての知識・理解・技能	1年	基礎的言語事項は、おおよそ身に付いている。より深い知識と応用力の向上を図りたい まだ知らないことが多く、新しく出会った言葉と格闘しているという現状。また、文法に関する知識も技能もそのスキルは低い。	資料集・ワークシートを活用し、自学自習の態度の育成を図る。 言語に関しては、四字熟語・慣用句と整理して与え、不断のフィードバックによって定着させる。また文法に関しても繰り返し問題を解かせ、達成感を味わわせるとともに、技能の向上を図る。				
	2年	文法に関しては、授業への取り組みは、おおむね良好である。定着については、一部課題が残る。 生活の中で用いる小学校までの漢字や語句の意味が定着していない生徒が多く見られる。 文法に関しては多くの生徒が意欲を持って取り組んでいるようには見えていたが、テストをしてみると、定着していない生徒がいることもわかった。	授業での演習やプリント課題など家庭学習の習慣化を図る。 語彙を数多く学ばせ、文章の中で使う練習を取り入れる。漢字テストは定期的に行い、定着を確認していく。 文法に関しては、授業の中で小テストで確認しながら進める。簡単な教え合い活動を取り入れて、その都度理解をさせながら進める。				
	3年	▲語彙が乏しい。読書習慣や活字に触れる機会の差が顕著に表れる。 〇漢文など規則性があるものは大半の生徒が理解している。	・漢字や語句の小テストを行い、その過程で語彙の獲得、定着を図る。 ・語句調べを引き続き行う。 ・引き続き、例文などで語句を伝える。				
授業改善の検証方法		【国語への関心・意欲・態度】1学期との提出物の状況を比較する。 【話す聞く能力】聞き取りテストやスピーチの評価を比較する。 【書く能力】作文の回数を増やし、校正の能力や内容の向上などを比較する。 【読む能力】中間考査及び期末考査の平均点の比較。また、読解演習課題の取り組みを確認する。 【言語】漢字の小テストや定期考査での得点状況、また文法では達成課題の取り組み状況で確認する。					

研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題
	課題に対する自分の考え、または文章を他人と聞き比べることで自身を振り返り、さらに向上していきたいという意欲を育てる。そのために、自分の考えを文章化し、発表する機会を多くもつ。少人数の話し合い活動を取り入れ、自分の考えを広げさせる。	少人数による話し合いは行いにくい状況ではあったが、紙に書かせ、その紙を見せ合うという方法で意見交換をさせた。意欲的に取り組むことができ、自分の文章を振り返ることができた。また、意見発表会を行い、よりよい文章を書きたい、よりよく発表したいという気持ちが生まれていたようで、成果があった。	再び意見発表会を設け、1学期の反省を生かして文章を書かせていきたい。 引き続き、文章を書く力、読み取る力を、実際に短文で書くという作業を通して身に付けさせていく。 新しく学んだ語句を使った文を短文で書くという作業を取り入れ生活の中で生かせるようにする。		

令和2年度授業改善プラン

（取り組み内容）　・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（　国　語　）　教科担任名

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜〇成果　▲課題＞

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの１次評価）	2学期終了後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
学び合う力		【考えや意見の交流について】 ・グループでの話し合いを通して、他の考えを知り、それらをもとに自分の考えをまとめる。 ・文法の達成課題等については生徒が採点をすることで、理解の深化と作業能率の向上を目指す。	【成果】 ・文法の達成課題に関しては生徒による採点が軌道に乗り、効率よく進めることができた。 【課題】 ・授業時間が少なく、グループでの話し合いをする時間を十分に取ることができなかった。そのため、グループ内での話し合いも順調には進まなかった。				
		【考えや意見の交流について】 ・作文を共有し、他者の書き方や考えを知る。 ・話し合い活動を頻繁に行い、自分の意見を伝え、他者の意見を聞き学ぶ場面を設ける。	【成果】 ・他者の意見を聞こうとする姿勢をもつ生徒が増えた。 ・書くことが苦手な生徒には型を示すことで、生徒によっては伝わりやすい文章を書けるようになった。 【課題】 ・対面が難しかったため、話し合いから他者の意見を踏まえるということがあまりできなかった。 ・自分の意見の主張、及び他者の考えを踏まえて話すことの例示をさらに増やす。				
		課題に対する自分の考え、または文章を他人と聞き比べることで自身を振り返り、さらに向上していきたいという意欲を育てる。そのために、自分の考えを文章化し、発表する機会を多くもつ。少人数の話し合い活動を取り入れ、自分の考えを広げさせる。	少人数による話し合いは行いにくい状況ではあったが、紙に書かせ、その紙を見せ合うという方法で意見交換をさせた。意欲的に取り組むことができ、自分の文章を振り返ることができた。また、意見発表会を行い、よりよい文章を書きたい、よりよく発表したいという気持ちが生まれていたようで、成果があった		再び意見発表会を設け、1学期の反省を生かして文章を書かせていきたい。 引き続き、文章を書く力、読み取る力を、実際に短文で書くという作業を通して身に付けさせていく。 新しく学んだ語句を使った文を短文で書くという作業を取り入れ生活の中で生かせるようにする。		